

**小野岳** (1383m)

往きのバスの中で、ツアーリーダーの米原さんから、“明日の二岐山よりも今日の小野岳のほうがはるかに厳しいです。”と宣言されていた。高さは会津二岐岳よりも200mくらい低いのに、ほんとかよと思う。歩き始めだって12時近くの設定である。しかしきちんと地図をチェックすると標高差950mあって、これを4時間で登って降りるなんて無理だよと思った。普通は標高差300mが1時間で登る標準とされている。その感覚でいえば登りだけで3時間かかるところである。降り2時間として休みを入れなくても5時間のコースだ。まあ、歩いてみたら解った。遠目に見ると富士山型の山に対して、道は真っ直ぐにつけられている。ジグザグに道をつけるとか、ぐるぐる巻くように道をつけるといった感覚がない。いわゆる里山に見られる道の付け方だ。ただし里山の場合はせいぜい30分も歩けば、峠や鞍部に着くから、少しの我慢で済む。ここはそれがかなり長い。歩き始めの30分で標高差220mをクリアしていた。5分休んで次の30分では登山口から500m以上をクリアした。結果としては頂上まで950mの標高差を2時間足らずで登り切っていた。決してペースが速かったとも思えなかった。まさに“ビックリボン”である。

期待していた紅葉は、心に染み入るというほどではなかった。黄色が主体で、もみじや

カエデの赤はあまりない。それも 1200m くらいまでで、その上はすでに落葉していた。遅かったようである。天気は上々であったが、上空の雲はしっかり腰を据えていたので、本来見えるはず的那須岳や会津磐梯山は見ることはできなかった。

### 大内宿

降りてから、近くの大内宿の散策を行った。観光地化を狙ってかやぶき屋根の家をアピールしているが、あまり興味はわかなかった。入口に建てられた、大内宿憲章の中の“外部の資本を排除する”などの文言にはゲンメツさえ感じた。角館のように案内ボランティアでも居ればいいのに。



## 二岐岳 (1544m)

米原さんは、二岐岳は楽です。と言っていたが、登り道は小野岳と同じように真っ直ぐであり、楽をするというわけにはいかなかった。どうも会津の山はこのような道の付け方をするのが当たり前のようだ。しかも高くなった分だけ紅葉はさらに終わっていて、高いところは丸坊主、低いところは常緑樹で、感激には遠かった。

## 雑記

今回の毎日新聞旅行は、ツアーリーダーの米原さんの他に初顔の湯川さん。メンバーはジイサマ7名、バアサマ11名。知った顔は口の上の大きなホクロのバアサマだけだった。

帰りに鍋を祭った神社があって、バスを止めて希望者だけ立ち寄った時に、行かなかったジイサマの一人がえらくトンガっていた。“いつまで待たせるんだ”と言って、ツアーリーダーの米原さんに向かって“謝れ”とさえ言っていた。米原さんは穏やかな人なので“すみません”と言ってその場を収めたが、はたから見ていると“テメー、何様だと思ってんでー”と怒鳴りつけたくなる。山の男にもこんなイヤナ奴がいるんだ。

帰りのバスでは、毎日新聞旅行がよく使うジーエル観光の名物ドライバーの工藤さんの独り舞台であった。と言っても運転をしながら漫談をしてくれたわけではない。工藤さんが登った山で撮ってきたDVDを見せてくれたのである。

最初は餓鬼岳である。北側の白沢登山口からピストンしたみたいだ。ビデオカメラで撮影をしながらの登山というのは大変なことだ。自分が写っている場面は三脚で固定した後、戻って自分の歩き姿を写したという。つまり1往復半したことになる。ここに写っている



橋などは今にも崩れ落ちそうなものばかりで、2012年にここを歩いている私としては“オレ、こんなところほんとに通ったのかな”と思わせられる。私が行ったときは曇り空であったので、あまり遠望は利かなかったが、工藤さんの撮影で見ると北アルプス全部の山が写っているようであった。

その後寝てしまったので途中は見逃したが、第2弾は一転して南アルプスの大無限山である。私が登ったのは2005年にキリマンジャロ仲間の瀬尾さんとだった。小無限山の避難小屋に泊まって大無限山をピストンして、下の部落の田代に泊まった。工藤さんは田代から1日で往復して、しかも撮影しながらである。10時間半でこなしたという。毎日新聞旅行のツアーでは15時間かけるらしい。私が登った時に比べるとずいぶん道が崩れていた。今度はヘルメットにカメラを仕込んで撮影したみたいである。手の込み方が一段アップした。たぶん工藤さんは降りてからそのまま車を運転して東京に戻っているであろう。またまたビックリボン。

第3弾は新潟県村上近くにある“日本国”というリゾート地帯。古い部落の家々が屋号を構えたりして過疎化への対抗手段をいろいろ講じている。“日本国”散策というウォーキングロードもある。ここで工藤さんは部落を歩いているおばあさんにインタビューをしたりしている。この部落名物のおにぎりやさんに寄ったりして、ここでもインタビューを試みている。まるでNHKの“小さな旅”を見ているようだ。商売替えしても十分やっつけけるよ。